

内容	小中学生に総合学習の時間を使って町の抱える課題解決を仮想の社会を設立し、会社を経営してもらう提案をしたいと思います。これについては新潟県の佐渡島においてすでに行われていて、小学生が「株式会社松ヶ崎小学校」を経営し、移住者の増加を目指しています。 子供の目線で佐渡の魅力を伝えることで転校生の増加という成果が出ています。小学生の段階からこのような経験をできることは掛け替えのないものになるかと思います。 大多喜小学校の方が松ヶ崎小学校よりも生徒数が多いので、移住政策部門、地元産品の販売向上部門、獣害対策部門などいくつかの部門を作って株式会社大多喜小学校を運営してみるの面白い試みかと思います。 大人の目線で移住政策、観光促進、獣害対策は行われています。子供の視点から考えるとまた新たな視点で物を見ることができると思います。役場、地域おこし協力隊、観光協会、道の駅、商工会などとのタイアップも面白いかと思います。 移民を受け入れない限り日本全体の人口増は見込めないと思います。兵庫県明石市が転入者を増やしたのは人口を隣から奪っただけと言われています。独創的な教育が行われているから、房総半島に移住するなら大多喜がいいねとなるよう、周辺の市町村よりも早く転入者を増やす行動を起こして頂けることを願っております。
回答	総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標としております。

	現在小学校では3年生から6年生において、中学校では全学年、年間活動計画に沿って総合的な学習の時間を年間70時間程度授業を行っています。 他の地域では、この総合的な学習の時間を活用して地域の移住定住などの課題を解決している地域があるとのことご提案でございますが、先ほども申しましたように、本町では、各学校の活動計画に沿ってこの総合的な学習の時間によって、小中学生の資質・能力の育成に努めておりますので、移住政策、観光促進、獣害対策等は、地域の方々の様々なご意見を伺いながら推進してまいりたいと思います。
--	--